

GOOD MUSIC,

GOOD PEOPLE.



特集 時には 音楽の話 を

時には、音楽の話をしよう。
あなたが。
どんな音楽を聴いてきたのか。
どんな音に救われて、
どんな音が、どうしても好きになれなかったのか。

いま、日常にはどんな音が流れている？
聴くたびに、
胸をかきむしりたくなる一節を教えて。

この街で鳴っている音楽を取材したら、
音楽に人生を触られてしまった人たちに、
何人も出会った。
うまくいくことばかりじゃない。
続ける理由だって、
きっとひとつじゃなかった。

特集をつくりながら、
ずっとリフレインしていた言葉がある。
「やめられないのは、好きだからじゃないですか」。

EDITOR, WRITER / AZUSA FUKUNAGA
WRITER / ASUKA NAKAJO, KIMIHO YANO
PHOTOGRAPHER / YOSHIKO OTSUKA, MOTOTSUGU MAEDA
DESIGNER / SHINYA HAMACHIKA

鎌田優紀子は寄り添う。



(YUKIKO KAMATA)

作曲家・鎌田優紀子さんの音楽には、生きることのよさ、こぼれ、かなしみも、同じ温度で見つめるまなざしがある。日常と地続きの中で生まれる、音の世界の可能性に迫る。

病気のときに、食べられるものが限られるように、人が本当に落ち込んでいるときに手には、音楽や文章は、思ったよりわずかだ。それを実感しているから、鎌田さんの音楽は、そんな時間に寄り添ってくれるクスリのようなものだった。

宮崎県の人口3000人ほどの小さな町で育ち、幼い頃から音楽が日常にある日々を過ごした。作曲の楽しさに出合ったのは、大学時代。ただ、作曲家として生きる選択は、卒業後は音楽の教員に。「向いていない」と振り返る一方で、病を患ったことをきっかけに、自身の生き方を見つめ直し、作曲の道へと進む。

現在は熊本を拠点に作曲活動をする傍ら、プライベートでは2人の子どもの育児に奔走する日々。「自分の意志で音楽をやめようと思ったことはないけれど、ライフステージが変わるなかで、続けられないかもしれないと思う瞬間はありますね。家族が眠りについたあと、寝室の一角にある小さなアトリエで、音を重なる夜もあるという。

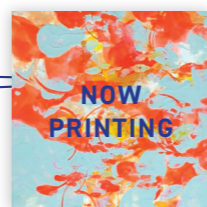
昨年末にリリースされたアルバム『N』には、穏やかで芯のある、まるで賛美歌のようなピアノが流れる。自主制作と並行して、企業CMやMV、映画音楽まで、その活動は幅広い。時には県外のスタジオで録音を行うこ

とも。2年前からオンラインでオーケストラセッションとフルムスコアリングを学んでいる。「知らないことを学び、表現が広がっていく。純粹に、いまが一番楽しい」と話す。今後は、ヒップホップとの融合など、新たな表現の形にも触れてみたいという。

創作活動とクライアントワーク。どちらにも通底するのは、日常にある答えのない問いに、音楽を通じてわかるようにし続ける姿勢だ。真摯に、かつ自然体で表現の世界と向き合う彼女の姿勢に、これからの音楽の可能性が透かしている。



寝室の一角にある作業スペースで創作する。壁面には子どもたちからの手紙や、アートが。重なる無数の譜面のなかから、彼女の音があふれ出す。



Ro Collection / 2026

7月リリース予定。「Ro」はデンマーク語で「静けさ」の意。多彩な音のなか、静寂の息づかいを描いた作品。アートワークは熊本在住の画家yurikoによるもの。

NEW RELEASE



リビングに置かれたアップライトのピアノ。日常の風景に身を置きながら、音を探していく。その積み重ねが、鎌田さんの音楽を形づけている。



読書家でもある鎌田さん。家族の成長を映し出すファミリーライブラリーには、坂本龍一に、遠藤周作。図鑑におもちゃまで。

PROFILE

鎌田 優紀子 かまた・ゆきこ

Moiré Inc. 代表。作曲家。宮崎県生まれ、熊本市在住。中高一貫校の音楽教員を経て作曲の道へ進み、CMや企業MV、映画音楽など幅広い作品を手がける。2025年には、アルバム『N』をリリース。2026年には、楽曲を手がける長編映画作品の公開も控えている。

@yukikokkamata

#03 TORIKAGOは遊ぶ。

時には音楽の話を。



1977年創業。音楽好きたちの「沼」として愛される老舗。中古レコード約3万点。カフェスペースもあり、「レコード屋はちょっと緊張する」なんて人も入りやすい。

熊本のビートメイカー・TORIKAGO＝江崎悠馬、23歳。レコード、テープ、雑貨、VHS。ディグらないと出てこない場所に、彼の手はひるりと伸びていく。

最新作「Ipanema」を初めて聴いたのは、出張先の沖縄だった。Spotifyで音源を再生して、海感とノットに書きとめた。あとから本人に話すと、サンプリングは「ブラジル音源」だからイパネマってタイトルです」と笑った。繋がっていた。

TORIKAGO。本名・江崎悠馬。山鹿の工業高校を出て、雑貨店のアルバイトを経て、応募した福岡のレコード屋には落ちた。代わりに、噂で聞いた熊本のレコード店「WOODSTOCK」を訪ねた。オーナーが車好きで、その日しょぼいドライブ行って、戻ってきたら、じゃあ働いてみようかって。19歳だった。いまは店長として、平日はほぼひとり店を回している。

ビートメイクをはじめたのもその頃。「考えながらやるのが、逆に苦手で、サンプル落として、刻んでいったときに生まれる、偶然のものを組み合わせるのがすごく好きなんですよね。その時に起きる不思議なもの、ほろろ、なんなら好き」。

たとえばジャズ、ソウル、多国籍音源から

拾ったフレーズに、自分で打ったドラムを重ねる。完成したデータをわざわざカセットテープに一度通して、また録音し直す。ノイズは消すのではなく、強める。「テープって、1回通すと音が丸くなる。角がなくなる。めちゃくちゃめんどくさいんですけど、その手間が、なんか好きだ」。

憧れは、シアトルのビートメイカー、DJ Withers。SNSも公式情報もほぼなく、ふいに新曲がポンと現れる謎の人だ。「ネットを探さなきゃ見つからない。あの感じが、すげえカッコいいんです。ディグらないとどっさりつけない場所に、ディグらないとどっさりつけない音源を置く。KのS、雑貨、リサイクルショップ。彼が反応するものは、すべて「掘らないと出てこない」もので揃っている。

ところで名前の由来を聞くと、こんな答えが返ってきた。「鳥と自然がともっと好きで。あと、ビートメイカーって、家にもってずっと音遊びしてるんですよ(笑)。俯瞰で見たときに、本当に鳥か、こ状態だなんて、カゴのなかにはまって、こい集中してる。みたいな。論議ではなく、いとおさが宿った命名だ。将来は自分のレベルを立ち上げて、国内外の埋もれたビートメイカーを掘りに行きたいという。鳥かこの扉は、もう半分くらい開いている。たぶん。」

(TORIKAGO)

WORD of MUSIC LOVER

簡単に見つけられない、見つからない音楽があるよ (TORIKAGO)

NEW RELEASE



Ipanema / 2026

ブラジル音楽をサンプリングした、ジャジーなインスト。どこか浮遊感があって、旅の匂いがする。



PROFILE

TORIKAGO トリカゴ

2002年、熊本県菊池市生まれ。ビートメイカー/DJ。10代後半でDJ UMAとして活動を開始し、ビートメイクの道へ。熊本の音楽仲間たちと「FLIP NIGHT」を不定期開催。老舗レコード店&カフェ「WOODSTOCK」店長。

@tori_kago_



うたとことば。

Songs and Words

聴くだけじゃ、もったいない歌がある。歌詞だけで読み返すと、ぜんぜん違う顔が見えてくる歌がある。熊本ゆかりの5人のシンガーソングライターと、それぞれが大事にしてきた、ことばの粒。



“私 昨日見た夢ほど曖昧に生きてない”

「昨日の夢」
昨日見た夢はいつだって
思い出そうとすればするほど曖昧になった
取り戻せば ほら
見えてくる そういえば
さっきまでの悪い言葉も
今となっては もうどうでもいいわ
仕方ないことの人生ばっかじゃやっていけない
私 昨日見た夢ほど曖昧に生きてない
一、笑って誤魔化さず
二、泣きたい時は素直に
三、今やりたいことをして
四、大丈夫、自分を信じよう
忘れちゃダメなことは
さっと忘れるからどうか
嫌な思いに埋もれないようにして
肝心なことはいつも
運命的な出来事はもつと
未来で待っていることを
知っていて私
一、笑って誤魔化さず
二、泣きたい時は素直に
三、今やりたいことをして
四、大丈夫、自分を信じよう

PROFILE
Soneiyu ソネイユ

熊本市出身。「akari」名義で活動を開始し、近年、ソロ名義を「Soneiyu」に改名。バンド「Shiki」のボーカルとしても活動。SAKURA MACHI Kumamotoサウンドロゴ、ABC-MART「COCOSee」インストア、テラバル自動車学校CMナレーションなどを担当。繊細でどこか伊さを感じる歌声と、心の奥に静かに響く言葉で世界を紡ぐ。
@soneiyu

STUDY!

10代でNYへ渡ったものの、最初の一步が踏み出せなかった。「はじめてもないのに、あきらめようとしていた」という。それでも配信をはじめ、音楽仲間を探し、少しずつ世界を広げた。いまのバンドメンバーとの出逢いも、その延長線上にあった。「大丈夫。未来にはいいことがあると信じて!」。そんな過去の自分に向けてような、未来の誰かに手渡すような、明日へのエール。

アヒルさんポートと泳ぐ水鳥
飛び立つ先に雲が一筋
仕事や遊び運ぶ飛行機
平和の音が聞こえる
平気なようでそれぞれのLIFE抱え集う
でこぼこに連なって
澄んでいたいこの水のように
何も知らない子どものように
大人らしきなんていない
流れていたい澱まないように
何も言わない草木のように
おだやかに暮らしたい
すんでいた
すんでいた



(ラップ)
ねえ一緒に散歩に行こうか
今日は気候が良い感じだし
君に話したいことも山積み
何もやらずにほとりに佇み
過ごしてみるのも良いかもね
帰る頃には良い顔で
そうだと良いなと願いを込めて
誰もがここに何か求めて
足を運ぶこの場所は
楽しみ方も人それぞれで
散歩したり本を読んだり
弁当食べたりポート乗ったり
穏やかに時が経っていく
日々の「何か」を補っていく
水の流れはケセラセラ
水の流れはケセラセラ

PROFILE
嘉悦 なつ美 かつみ

熊本市出身。証券、秘書、ライター、大学事務を経て、シンガーソングライターへ。2022年に上通イメージソングコンテスト準グランプリ受賞。2025年、北熊本駐屯地開設68周年記念行事で国歌独唱。現在は東京・熊本の二拠点で活動。RKK、JAグループ熊本、西部ガスリアルライフ熊本などCMソング・楽曲提供多数。
@kaetsu728

「江津湖」
澄んでいたいこの水のように
何も知らない子どものように
電車通りを入ったところ
クリーンな水乗って芭蕉園抜けて
ぼーっとするサギ
おしり出すカモ
群れ泳ぐ魚たち
平気なようでそれぞれのLIFE抱え集う
ばらばらにまとまって
澄んでいたいこの水のように
何も知らない子どものように
大人らしきなんていない
流れていたい澱まないように
何も言わない草木のように
おだやかに暮らしたい

STUDY!

ギターのコードから手癖でメロディを組みがちだった頃、「ギターを触らずに、作ってみて」と先生(kenshiroさん)に言われて、江津湖を歩いて生まれた一曲。心がザラザラする日に通う、家の近くの場所。サギ、カモ、草木、人々。それぞれが勝手にいるのに、なぜか「ばらばらにまとまって」いる、あの感じ。最後のひらがなの「すんでいた」は、「澄んでいたい」と「住んでいたい」を重ねた、ひらがなだからこそ聞く余白。

「そら、あける」

白けた空が心地いい、いい
何もないうでそばにいるからさ
はなす言葉は煙みたいだ
すべて終わった、すべて終わった
赤い点滅で揺れる光を
なぞるだけなぞって
どこへ向かうの
まっすぐな線を描くよ
あの道も
あの夜も
遠く遠く続くから
白けた空が心地いい、いい
何もないうにちゃんと笑うからさ
かわす言葉は光みたいだ
すこし残った、すこしかわった

公園の隅から繋ぐ視線を
微笑まずにいられず
なぞって進むよ
真っ直ぐな線を描くよ
あの海も
あの空も
遠く遠く続くから
気にしないでいて
気にしないでいて
長く長く響くから
深く深く開くから
FuFu~
FuFu~

STUDY!

新しい年を迎える前の断捨離の途中、部屋の窓から見た「白けた空」が発発点。青空の「正しさ」が苦手だったtenohiraが、雲のうっすらかかった空に救われた瞬間に書きはじめた歌。飛行機雲、船の水しぶき、自転車で降りる坂道。「一粒の風景が繋がって幹が立つ」イメージを感じさせる。「あける」のひらがなは、夜明けの「明ける」とも、閉じ込められた窓を突き抜ける「開ける」とも読める。読点ひとつで余白が立ち上がる、夜明け前の音楽。

PROFILE
tenohira てのひら

2001年、熊本県生まれ。大学2年生でギターを手にし、弾き語り始める。2024年より本格的に音楽活動をスタート。セクシュアルマイノリティの一人として、ひとりの「普通の人間」として、憧れやさやかな希望、ありのままの自分の声を音楽に乗せて届けていきたいと考えている。2026年3月29日、tsukimilレーベルから1stシングル「そら、あける」をリリース。
@tenohira.my_s_pace



白けた空が心地いい

「野良少女」

野良なの ノラ少女
野良なの ノラ少女
手招き 目利き 赴くまに ザラザラと行こう
ノラなの ノラ少女
おいでなすって 是非いらして
ノラノラしよう
あなたに振る尻尾はないけれど
ノラノラしよう
何処なの ノラ少女
何処なの ノラ少女
風向き 満ち引き
私の心は ジンジンと痛む
何処なの ノラ少女
帰っておいで 是非とどまって
ユラユラしよう あなたに似合うと靴を用意しました
スヤスヤしよう
何処なの ノラ少女
ここだよ おまたせ
私はノラ少女



STUDY!

もののけ姫のサントラに憧れて、音から作りはじめた一曲。船の汽笛のようなシンセを見つけたとき、戦後の闇市の港町と、そこに棲む「野良少女」が見えてきたという。「ノラノラ」「ユラユラ」「スヤスヤ」。彼女のまわりだけ言葉が少し滲み、行儀をうしなう。1番は野良少女の視点、2番は、彼女を追いかける誰かの視点。最後に、彼女は自分で名乗る。「私はノラ少女」と。

PROFILE
空耳アユミ そらみみ・あゆみ

熊本在住のシンガーソングライター、トラックメイカー。ギターと歌の弾き語り、ポエトリーリーディング、シンセや小楽器を使ったインスタにも興じる、気ままなスタイル。5月20日に1stアルバム「Powder Notes」を配信リリース。7月にはインディーレーベル(TWIN SHIPS RECORD)からCDリリース予定。
@soramimi_ayumi

「こすもすの赤いさざなみと乱暴な風に乗り込もう」

「さざなみばっしょん」
※少し気ままに舵取りをしよう
産まれた涙はゆるりして
儂い首筋、光れ、日々の泡
誰にも邪魔などできないわ
指のすきま少しずつ
こぼれおちて逃しちゃうったの
苦々しく 舌打ちしたって
「繰り返してちゃ、だめなんだ...」
※くりかえし
心ささくれちやあって
優しさに渴いているんだわ
移ろう雲 追い越されながら
「眺めるだけじゃ、だめなんだ...」
※くりかえし
からまった長い髪
その指でほどくのよゆるやかに おあゝお木漏れ日にまもられ何か出来たらいいなあ...
「こすもすの赤いさざなみと乱暴な風に乗り込もう」
※くりかえし



PROFILE
青木里枝 あおき・りえ

2000年頃よりflexlifeのメンバーとして活動開始。R&B/シティポップ的文脈のシンガーソングライターユニットを、大倉健(G)と編むボーカリスト。2011年頃に熊本に移住。コロナ禍にYouTubeで発表した80sを中心とした邦楽カバー動画を発端に、カバー音源をアナログレコードで連続リリースし好評。最新作はhandericと共作の「さびしいこうもり」。
@rie9473

STUDY!

「もらった曲がラブソング風に聞こえたら、ラブソングじゃない歌詞にしてやれ」。自称・天邪鬼の青木さんが20代後半に書いた一篇。「さざなみ」という日本的な揺らぎと、「ばっしょん」をひらがなに崩した相反のかけ合わせ。「ほとぼるパッションじゃなく、底のほうで消えそうで消えない生命力」。萩原朔太郎、梶井基次郎など日本文学を繰り返し読んでいた、印刷された詩のビジュアルまで意識した一曲。

時には音楽の話を

平気なようで

それぞれのLIFE抱え集う

“ばらばらにまとまって”

14

料理をつくる時に
聴く一曲は？

Broke/Samm Henshaw

「最高の夕方に似合う一曲」



テレビを見ていて、たまたま出会ったのがSamm Henshaw(サム・ヘンショウ)でした。イギリス出身のアーティストで、激しすぎず静かすぎないテンポとメロディが心地よく、ちょうどいい。休みの日には早い時間からお酒とともに料理をつくることが多いのですが、そんなリラックスした時間をこの曲から始めています。



UI/UXデザイナー
内田 美里 Uchiida Misato
1997年鹿児島生まれ。就職を機に熊本へ移住。ラッパーの推しはPUNPEEとKohjiya。

12

営業前に聴いている音楽は？

楽しい蹴伸び/Chara+YUKI

「可愛い歌詞と可愛い歌声で楽しくなれる」



女性のお客が多いこともあり、カッコよく可愛いアーティストの音楽を聴きたいです。スタイリングのイメージが湧いてきそうな感じがして。この曲は特に、楽しくて小躍りしたくなる。営業中は頭がフル回転するので、ゆるっとしながらテンションをあげてくれる曲で、1日を始める前に頭を解いています。



美容師
saya
夫婦で美容室&自転車店「enid(イーニド)」を営む。お気に入りレコードは荒井由実のユーミン・ブランド。

10

いま、プレイリストに
入れたい一曲は？

燕/スーパー登山部

「爽やかな山景色が思い浮かぶ」



スーパー登山部はとにかくいいです！特に「思えば遠くきたものだ」という歌詞には、お店をコツコツと続けてきたからこそ、強く共感してしまう。始めることよりも続けることのほうが実は大変で。それでも、その先に見える景色があるなど。お花も音楽も同じ自分の気分をあげてくれるもの。日常の小さな幸せを大切に、コツコツと続けています。



flowershop ECHO.店主
sumire
音楽が大好きで季節ごとにプレイリストをつくる。お客さんが音楽に揺れながら花を選ぶ姿が好き。

08

農作業中に聴く音楽は？

交響組曲『ドラゴンクエストIV』より
「ジブシー・ダンス」/すぎやまこういち

「まさに踊り出しそうな演奏にカルチャーショックを受けた」



10年くらい続けているルーティンが、この曲を聴くことです。受験勉強や資格の勉強、今では精米中にも聴いたり。テレビでバイオリニストの五嶋龍さんが演奏していたののが実は大変で。それでも、その先に見える景色があるなど。お花も音楽も同じ自分の気分をあげてくれるもの。日常の小さな幸せを大切に、コツコツと続けています。



米農家
深水 翔平 Fukami Shohei
1999年熊本生まれ。実家の米農家で新規事業の立ち上げを行いながら、古物屋「β(ベータ) Furniture」としても活動中。

06

アイデアを練る時に
聴いている音楽は？

Chill/Apple Music Radio

「ラジオDJのトークも含めて、
新たな音楽と出合える」



ラジオには、その音楽にまつわるエピソードがあるので楽しいですね。このラジオはすべて洋楽で、曲間のトークも日本語ではありません。海外でタクシーに乗ると現地のラジオが流れていることが多いのですが、これを聴いていると、そんな海外での経験を思い出します。非日常な情景を振り返り、何か新しいことができないかを考えています。



専城大学教授
クリエイティブディレクター
SOJO GALLERY館長
甲野 善一郎 Kono Zenichiro
2026年よりSOJO GALLERY館長に就任。すべての展示企画に携わる。気合いを入れた時の音楽は、スケートリンクやメロコア。

04

いま聴いている、
熊本のバンドは？

yard rat (ヤードラット)

futurina (フューチュリナ)

「ジャンルの枠を飛び越えていく2組」



よくライブハウスへライブを観に行く2組。運転中にも音源を聴きます。運転は日常的なものです。目の前の景色と聴いている音楽が紐づく瞬間があります。忘れていたのに音楽と一緒に思い出せる。それがいいなと思って。ローカルのライブハウスへ行き、そこで活躍するバンドやアーティストを観るのも好きです。



mychairbooks店主
藏原 広人 Kurahara Hiroto
複合商業施設「243」の1Fにて「mychairbooks」を営む。ローカルで活躍するバンドやアーティストが好き。

02

出勤後、最初に流したくなる一曲は？

Hold On/John Lennon

「曲調に癒され、歌詞には奮い立たされる」



店の営業スタートは、心と体が少しずつ起きてくるような曲を聴きたくなります。一曲に絞るのは難しかったのですが、ジョンレノンの好きな曲を。曲調は種やかで癒されますが、歌詞を聴くと今日も頑張ろうと奮い立てます。クラブミュージックも大好きですが、店では洋服が主役なので、服と調和する曲を聴いています。



Sleepy PEOPLE-PEOPLE オーナー
藤川 啓 Fujikawa Hiraku
洋服屋の傍ら、たまにDJ。洋服が生活にもたらず力を借じている。

WHAT ARE YOU
LISTENING TO
TODAY ?

今日、
なに聴く？
暮らしの
なかの
音楽

天気に合わせて、気分に合わせて、空間や人に合わせて。音楽を自由に楽しむ人は、きっとそれぞれに哲学を持っている。意外と知らない、「あの人流」。異なるライフスタイルを持つ熊本のミュージックラバーたちに、暮らしのなかにある音楽を教えてください。

15

暮らしのなかで
聴き続けている音楽は？

ピアノ協奏曲ト長調/ラヴェル

「YouTubeで見つけた色彩鮮やかなクラシック」



この曲を聴くと、ピアノの鮮やかさを感じます。初めて聴いたのはジュネーブ国際コンクールで優勝された萩原さんの演奏。演奏者や指揮者は、作曲家の意図を音に乗せて表現しています。だからこそ、解釈の違いで表現も変わり面白い。私自身も表現者として、楽譜に込められた意図に向き合っていきたいと思わせてくれます。



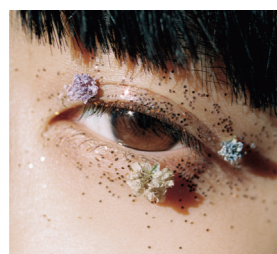
公務員
巖 文香 Iwao Ayaka
2001年熊本生まれ。幼少期からピアノを習う。その後も歌ったり指揮をしたり、ずっと音楽がそばにある。

13

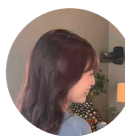
お菓子をつくる時に聴く音楽は？

祝祭/カネコアヤノ

「その人柄も含めて好きです」



音楽は「人」にハマることが多いです。去年初参戦したカネコアヤノのライブがすごい豪雨だったんですが、会場へ辿り着いた人への対応が素晴らしい。そのホスピタリティが心に刺さり、更に聴くようになりました。準備から片付けまではスマホ、ティータイムはレコードで、カネコアヤノの音楽を楽しんでいます。



胚培養士
前田 千瑛 Maeda Chiaki
胚培養士として働きながら、自身の菓子ブランド「mani(マニ)」としても活動中。かわいいものが好き。

11

暮らしのなかで聴く音楽は？

真夜中のギター/千賀かほる

「真夜中にふとロザンでしまう名曲」



ジャズやピアノ音楽、沖縄民謡など様々な音楽を聴きますが、最初に浮かんだのがこの曲です。娘を抱っこして寝かしている時によくロザンでいました。UAのカバーバージョンで出会い、調べたら古い曲で。「黙って夜明までギターを奏(ひ)こうよ」という歌詞など、哀愁が漂う雰囲気が好きです。



主婦
上田 依里奈 Ueda Erina
1児の母。趣味は散歩と最近行っていないフィットサル。昔から聴いているアーティストは高橋真梨子やCHARA。

09

リラックスしたい時に聴く音楽は？

Feather/Nujabes

「音の重なりが気持ちよく、
たどずと聴いてられる」



とある建築現場で、大工さんが流していたのがNujabes(ヌジャベス)でした。彼の曲は、言葉に引っ張られず、頭は空っぽのまま体で聴いているような感じがします。流行り曲とはかなり詳しくないのですが、出来上がった音のよさだけで勝負したこの人の生き方に、静かに勇気もらっています。



建築家
阿部 悠子 Abe Yuku
東京、福岡、熊本での設計事務所勤務を経て2023年に独立。残すべきものを見極め、濃とした佇まいの建築を目指している。

07

お酒を片手に、
聴きたくなる一曲は？

男の子と女の子/
くるり Covered by ハナレグミ

「人間らしい歌詞と
ハナレグミならではのゆるさが重なる」



ハナレグミのライブで出会い、その後のMCでくるりの曲と知りました。この曲を聴くと、生きていくなあと感じます。「ロックンローラーになれば」と熱く聴こえる歌詞に、カッコつけないハナレグミワールドが重なる。何もまとっていない裸ん坊みたいな。そのゆるさもいいですね。お酒も、肩の力を抜いて飲みたいですから。



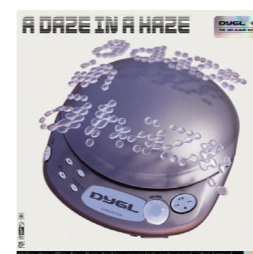
会社員
岡田 修人 Okada Shuto
23歳から岡山のワインナーで修行を積む。現在は熊本でワインのポスターなどが貼られている。ハナレグミの歌声が好き。

05

晴れた爽やかな日に、
カレーの仕込みで聴く音楽は？

A Daze In A Haze/DYGL

「前身バンド『Ykiki Beat(ワイキキ・ビート)』を
彷彿とさせる爽やかな聞きこち」



仕込みで聴く音楽は、その日の気分や天気で決めます。音楽を通してつくるので、曲によって微妙に味の着地点が変わります。ほんのわずかな違いですが、澄んだり清らかになったりみざったり…。爽やかにアップテンポなこれは、全体の流れが好きで、もしかしたらDYGL(デイグロ)で1番聴いているアルバムかも。



ヨグレカレー店主
坂本 康輔 Sakamoto Kousuke
2016年に夫婦で「ヨグレカレー」をオープン。店内にはライブのポスターなどが貼られている。最近聞いているアーティストはmei ehara。

03

最近コレクションに
仲間入りした音楽は？

French Kiwi Juice/FKJ

「一曲目から最後まで、
順を追って聴くのがアルバムの醍醐味」



父親の影響で、ちゃんと聴くぞという時はレコード。針を落としたりするのは少し面倒ですが、それができた時には心にゆとりを感じられるのがいいですね。最近買ったこのアルバムは再発版。買っておかないと手に取りました。いまは曲単位で聞けたりするけれど、やっぱりモノとして手元にあるのが嬉しいですね。



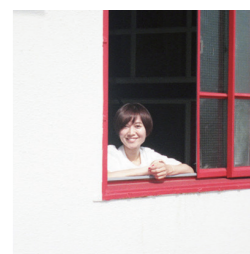
clasiqie店主
左座 康人 Zouza Yasuto
ナチュラルワインとビストロ料理の店を営む。お店のロゴはポップグループDe La Soulのオマージュ。

01

最近出会った
忘れられない音楽は？

ナツ・サマー

「屋上で夕陽と音楽。
すべてがハマった瞬間を見た」



ナツ・サマーさんのHIKE(ハイク)屋上ライブを古巣のSHIPSと企画したのですが、ロケーションと音楽が完全にハマった瞬間がありました。気候も良く夕陽も綺麗で、一緒に働いていた人たちと再び集まれる嬉しさも相まって。会場が一体となった景色は忘れられません。やっぱり、音楽には空間をガラッと変えてしまう力がありますね。



HIKEオーナー
佐藤 充 Sato Mitsuru
夫婦で2020年にホテル&カフェ「HIKE」をオープン。新しい音楽に出会うべく、フジロックに出ている新鋭アーティストをチェックしている。

この街で交差する、フリー・ソウル。



いい音が鳴るほうへ。

共通点。音楽が好きで好きでたまらない店主がいること。以上！

上通の奥、少し時間がゆっくり流れる場所にジャズインおくらにはある。扉を開けると暗がりの中にびりりとレコードが並び、レコードのスピーカーからやわらかな音が流れる。音符が見えぬ、なほ立体感のある音楽と、それを包む空間の静けさが次第に体に馴染んで心地よくなっていった。

店主の小倉達弘さんは、長崎・五島の出身。18歳で熊本に来て、大学時代にジャズと出合ったのきっかけはオーデオ。先輩にジャズ喫茶に行くと言われて、同じ曲でも演奏する人によってまったく違うものになる。理論はあるけれど、その人の個性そのものが音になる。徐々にジャズに魅了されていった。

大学2年生のとき、決定的な出来事があった。福岡で親友のジャズバンドのライブ。同じ時期にサンタナの来日公演もあり、ロックも好きだった小倉さんが迷った末に選んだのはマイルスだった。「もしあの時サンタナに行っていたら、全然違っていたかもしれないですね。途端に少年のような表情になる。「あの頃のマイルスは、エレクトリックで、混沌としていて、インド音楽のような響きもあつて。ライブ中は身動きもできないくらい圧倒されてしまいました。」レコードで聴くジャズのスタンダードとは違う、渦のような音。そのステージで浴びた感覚は、いまも記憶に焼き付いている。

スピーカーは、BIA A3333Aをもとにしたカスタム。ウーファーやツイーター、中のケーブルまで細かく手を加えている。真空管アンプは、八代の「ラジオコロコロ」で仕立ててもらったもの。壊れたら修理し、基板を替

え、再び音を鳴らす。ここに流れる音は、時間を重ねることでは生まれない質感を持っている。音にはこだわりますからね」とただ嬉しそうに言う。

26歳で店を開き、46年。ジャズへの情熱が、そのまま熊本の街の一角に根を張った。名前の知られた演奏家も、学生たちも、この場所と同じように音を囲んできた。店では、昼の3時から、コーヒーも酒も出している。店を訪れるのは、ジャズに詳しい人ばかりとは限らない。ファンが多いチキンカレーを食に来る人もいれば、ライブの演奏を描きに来るアーティストもいる。「気に入ってほしいんだよ」という感じが、長い時間の中で訪れていた音は、熊本の街のあちこちに、やわらかく息づいている。

Jazz in おくら
 ● 熊本市中央区南坪町1-12 1F
 ☎ 096-325-9209
 🕒 15:00~24:00
 📅 休 火曜
 📍 @jazzinnokura

「音量が大きくて驚きました！」なんて書かれているのを見ると、「ソリヤヤ」という大空間には、B2のスピーカーから音楽が鳴り続け、約1000枚のレコードが並ぶアジアン食堂が、おむすび屋が、花屋があつて、洋服屋もある。何屋かと聞かれると、ちょっと困る。オーナーの言葉を借りるならば、その節操のなさがいい。

オーナーの酒井靖仁さんは、車を売る人から雑誌をつくる人になった。そしていまは音楽を鳴らしている。東京で浴びてきたカルチャーと、熊本の空気。両方を知っているからこそ、この場所には独特のミックス感がある。

「久しぶり」にてレコードを聴いて、やっぱり良い音が鳴っているという人がいたり、うちのイベントに楽しんで音に乗る大人たちがいたり、中学生が、最近アフリカン聴いてます。って話しかけてくれたり。そんな話をうれしそうにする酒井さんを見て、業界の酸いも甘いも見てきた人なのに、やはり最後のころは音楽が好きでたまらないというヒュアソウルなのか？とムタに熱くなる。

音楽をきっかけに、人と人がつながること。知らないうちに世界に出合うこと。好きなものが、もう少し好きになろう。ここはたぶん、そのための場所だ。ここから入っても楽しい。ここから読んでも面白い。雑誌みたいだねこの店。

アナログレコードにこだわるラジオ番組「OLD SOUL RADIO」のパーソナリティもつとめる。(FMKで毎週木曜19:00-19:55 ON AIR)

PROFILE
酒井 靖仁 さかい やすひと
 ● 熊本市東区尾ノ上1-9-3
 ☎ 096-283-0689
 🕒 11:00~19:00 (土・日曜は~23:00)
 📅 休 不定
 📍 @oldsoul_kumamoto

コーヒーは、学生時代から愛飲しているという「まる味屋」のもの。この味もまた、長い時間に寄り添ってきた味だ。



PROFILE
小倉 達弘 こくら たつひろ
 「ジャズイン おくら」店主。長崎県五島出身。ピアノの教師だった母の影響で、小学校1年生からピアノを習い始める。中学校では、ブラスバンド部に所属し、ピアノ、ギター、チューバなどを経験。大学時代にジャズと出会い、26歳で「ジャズイン おくら」を開店。現在も月に10回ほどライブを開催している。

今夜もすばらしい世界で音楽を鳴らさび。



ラジル音楽に出合いのめり込んでいく。「ブラジル音楽って、すごく幅が広いんです。ポサノヴァもあればサンバもある。ビートルズの影響を受けたバンドだってある。こんな音楽もあるんだとぶちのめされました」。サラリーマンを経て、2010年には仲間とラテンバンド「コロリダス」を結成した。

初めての熊本ツアーで、「諸国家庭料理『AVALO』の扉を開けた。「音楽とお酒を自由に楽しむ人たちがいて、いい街だな」としみじみ感じました」。熊本での3回目のライブは、熊本地震から1カ月も経たない頃。予定していたものの、被災地の心境を思い、二の足を踏んでいた。「熊本の人が音楽を求めているかもしれない」とAVALO店主の言葉に背中を押され、ライブを決めた。どんな状況でも、音楽を楽しむ心持ちがある。その強さに心底ぐっさりました。その時、対面でラテンバンドに出会った。「こんなにいいバンドがあつて、それぞれが音楽活動をやっていた。熊本ってすごい！」と逆に勇気をもりました。

2017年には熊本へ移住。翌年、「きびきび」を開いた。コロナ禍に制作したアルバム「すばらしい世界では、しみずさんが歩いた熊本の好きな店や場所を題材に楽曲を制作。遠くに行けなくても、身近なところには幸せはある」という想いを込めた。「幸せを外側に求めたより、家族だったり、近所だったり、好きなお店だったり、そういうところで幸せになれるよね」と。江津湖、万日山、不知火海、水辺や山道、風いだ海。見慣れた風景も、日常のなかにある音や光を、もう一度見つけ直すような感覚がある。「目の前に来てくれた人を楽しんでもらうこと。お店も音楽も、そこは共通しているのかもしれない」。

「きびきび」には、良い音が鳴っている。スピーカーから流れる音だけではなく、グラスの音や会話の音、ふいに歌われる一曲まで、この場所から奏でられる音になる。それは、人と人のあいだに生まれる響きあいの音だ。

路地裏音楽酒場 きびきび
 ● 熊本市中央区新市街1-4-5
 ☎ 096-288-4292
 🕒 20:00~翌2:00
 📅 休 不定 (詳細はInstagramにて)
 📍 @bar.kibikibi

時間が21時を回るころ、熊本の夜にポツと灯る店。「オンガクとサケ Yodan」は、2021年にオープンした。この店の主は、山本拓也さん。店名の由来は、スチヤダラーのインテリス雑誌「余談」から。「短く言い切る響きがかっこよかったし、後付けですけど、余談にこそ本質が含まれている感じがして」。そう話す山本さんの店には、その言葉の通り、正解を急がない時間が流れている。「電気仕掛けのオレンジ」や「生きるよろこび」「愛と欲望の日々」。約40種のオリジナルカクテルは、映画や音楽、誰かとの記憶が、そのまじりかたな名前前で並んでいる。言葉遊びから生まれた一杯は、注文のたびに小さな会話を連れてくる。

最初に音楽へ強く惹かれたのは、中学生のころ。映画「8 Mile」をきっかけにエミネムを知り、ヒップホップにのめり込んだ。白人でありながら、自分のスキルで勝ち上がっていく姿に惚れた。そこからは、そこからヒップホップ、日本語ラップ、Pitrupe、テクノ、ジミ・ヘンドリックス、ゆらゆら帝国へ。大学では軽音楽部に入り、ベースを弾いた。ローンを組んで、サンブレイやミキサー、DJsを手に入

れ、ビートルズにものめり込んでいった。音楽は聴くだけのものではなく、触れて、鳴らして、誰かと交換するものになっていった。

いま店でも流れているのは、山本さんが「何回聴いても飽きない曲」。そのプレイリストは900曲を超え、日々更新される。「自分がいちばん店にいるから、自分が飽きない曲をかけたんです。昨年から本格的にレコードでも活動がスタート。好きな曲を聴く耳に、客席の反応やビートルズのつながりが加わり、音楽の聴き方も変わってきた。音楽は、山本さんにとっても存在なのか。少し考えて、彼は「友達みたいなもの」と答えた。なくても生きてはいけるかもしれない。でも、あるほうが日々はずっと豊かになる。気分を上げた日はヒップホップを、ゆるみだした日はインテリスロックや「Pop」を、音楽はいつも、山本さんの日常のそばで、いい距離感の友達のように鳴っている。

燻製を仕込み、酒をつくり、言葉をひねり、仕上げに音楽をかける。「Pop」の夜は、店主が好きなものを少しずつ差し出しながら、「これどう思う？」とかカウンター越しに手渡ししていくような時間だ。感じたままに、クセごと素直に。それは、その人らしさ。がっつりこぼれてしまう夜だ。

PROFILE
山本 拓也 やまもと たくや
 「オンガクとサケ Yodan」店主。京都出身。大学時代からビートルズと音楽に親しみ、ミキサーやサンブレイ、CDを使った制作を行う。転勤で訪れた熊本の水や食、人の距離感に惹かれ、2021年に店を開く。クラブビールを企画する集団「三つの目」のメンバーとして、「きびきび」のしみずさんと活動中 (@mittu_no_me)。2025年からDJとしての活動もスタート。

オンガクとサケ Yodan
 ● 熊本市中央区下通2丁目7-32 シャワー・バルービル1-D
 ☎ 080-6114-7275
 🕒 21:00~翌3:00
 📅 休 不定 (詳細はInstagramにて)
 📍 @yodankumamoto

時には音楽の話を

路地裏という小さなハードルを越えて入ってくる人たちは、旅人のようにも、初めまじりの瞬間から常連客のようでもある。

繁華街の賑わいから逃れる細い路地に佇むきびきび。カウンターにはラム酒と黒糖焼酎の瓶、楽器や旅先の土産のようなものが無造作に並んで、まるでこの国とも言い切れないけれど、どこか違う国へ来たような空気が流れている。

店主のしみずけんさんはミュージシャン。今年の春に「コーシナル」日々の光をリリースしたばかりだ。軽やかに歌い、ウクレレを鳴らす。音楽の原体験は、小学校のリコーダー。新しい曲を耳にすると、すぐに再現できると。中学生になるとギターを始め、ミニマルピットルズ、ゆずを弾いた。やがて大学で

「路地裏音楽酒場きびきび」店主。ミュージシャン。群馬県出身。大学時代にサンバ研究会に入ったことをきっかけに、ブラジル音楽の世界へ。2010年にラテン音楽バンド「コロリダス」を結成。2016年にツアーで訪れたことを機に2017年に熊本へ移住。2018年にサトウキビを使ったお酒と妄想ラテン料理をテーマにした同店をオープン。

PROFILE
しみずけんた



燻製チーズ、燻製ナッツ、自家製ジャーク、たくあんを焼いた「逆いぶりがっつり」。自家製の燻製を盛り合わせた「燻製燻茶羅」は1人前800円くらい(写真は2人前)。

音楽の話を時には

日常のあわいでスウィングを。